

※本メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらの 二次元 コード(もしくは URL) から、メールを受信できるアドレスの登録をお願いします。また、本メルマガを多くのお知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。



<https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>

※ いつも当メールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

ぜひ、本メールマガジンに対しまして皆様からのご意見ご要望をお寄せください。「こんな情報がほしい!」「もっと深く掘り下げてほしい!」

「もっとこうだったらいいのに」など、皆様からの声を心よりお待ちしております!

次の二次元コード・URL よりお願いいたします



<https://forms.gle/6Paz2r3FJimxz5kb8>

■ 1 研修室点描

- ◇1 新規採用教員〔初任者〕研修講座(特別支援学校)第12日 小学校参観
- ◇2 新規採用教員〔初任者〕研修講座(高等学校)第12日 及び 新規採用実習助手(高等学校)第5日
- ◇3 新規採用教員〔3年次〕研修講座(中高、教科)
- ◇4 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座【選択研修:教育相談】
- ◇5 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座【選択研修:情報教育Ⅰ期、Ⅱ期】
- ◇6 未来を創るSTEAM教育研修講座 第Ⅰ日
- ◇7 いばらき輝く教師塾Ⅱ期

■ 2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

■ 3 センター事業のご案内

- ▼1 公開講義のお知らせ(教科教育課)
- ▼2 「令和6年度教師の魅力について考えるセミナー ~ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方~」のお知らせ(教職教育課)
- ▼3 Online Ed Café
- ▼4 教職に関する研究「学ぶことと自己の将来をつなげるキャリア教育」について
- 4 推挽録(編集に寄せて) 参与 中川 深(教職教育課)

■ 1 研修室点描

- ◇1 新規採用教員〔初任者〕研修講座(特別支援学校)第12日 小学校参観

【期日】令和6年11月7日(木)、14日(木)、21日(木)、28日(木)、12月5日(木)

【目的】特別支援学校の初任者が、通常の学級や特別支援学級、通級による指導等での参観を通じて、小学校の児童の発達段階や教育事情について理解を深め、特別支援学校の教育活動に生かす。

【場所】龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校、結城市立山川小学校、那珂市立菅谷東小学校

日立市立宮田小学校、鹿嶋市立鹿島小学校

【内容】授業参観3, 4校時(通常の学級、特別支援学級及び通級による指導の参観)

昼食・清掃・昼休み(学級で児童と交流)

講話「校内支援体制について」

研究協議「授業参観から気づいたこと、学んだこと」

【参加者の声】

○本日の授業参観から、学習の土台作りの大切さを学ぶことができた。教室環境の整備や今日学んだ流れがわかる板書、児童が何をやるかわかるように内容をシステム化することなどの積み重ねがあったため、児童が落ち着いて授業を受けていたと考える。細やかなことでも積み重ねていくと、「次はこうするのか」と予測したり見通しを持って安心できたりするため、日頃の授業や日常生活の中で丁寧さを意識していきたい。

○今回の小学校参観を通じて、改めて「子どもたちが楽しくてワクワクする授業作りの大切さ」と「通常の学級における特別支援教育の重要性」を学んだ。通常の学校であっても特別支援学校であっても、学びの基盤となるものは共通していると感じた。子どもたちが自ら学び続けることができるよう、これからも子どもの立場に立って授業を考えたり、子どもからアイデアを学んだりしてより良い授業作りを心がけていきたい。

○通常の学級や特別支援学級を見学・参観させていただく機会は大変貴重であり、このような研修に参加することができ嬉しく思います。自分自身、小学校での勤務に対しても強く興味をもちました。大変貴重な体験ありがとうございました。

【特別支援教育課より】

終了後アンケートから、受講者の先生方が参観を通じて気づいたこと、学んだことが多々あったことが伺えます。それらを研究協議で改めてアウトプットし、他の受講生と共感、共有することで、自分の更なる学びにつなげることができました。昼休みには、児童とかかわる機会も設けていただき、受講者が児童と一緒に笑顔で汗だくになってグラウンドを駆けまわる姿がとても印象的で、とてもよい交流ができたようです。今回の小学校参観で学んだことを、自身の教育活動の更なる充実につなげていってほしいと思います。

◇2 新規採用教員〔初任者〕研修講座(高等学校) 第12日 及び 新規採用実習助手(高等学校)第5日

【期日】令和6年11月14日(木)

【人数】116人(高112人、実4人)

【内容】特別支援学校における体験研修

○高等学校の教職員が、授業体験等を通して、特別支援の必要な児童生徒への基本的な関わり方や、特別支援学校及び特別支援教育への理解を深めるための研修を実施しました。

【参加者の声】

○児童生徒一人ひとりに合った指導・支援をするためにも、まずは児童生徒の実態把握が大切だと感じた。適切な実態把握をするために、複数人で対応すること、細かな視点をもつことが重要であると感じた。

○研究協議の中で「待ちの指導」という言葉が出た。教員が何でも手助けをしてしまうのではなく、子どもたちが自分の力で成し遂げるまで「待ってみる」という主旨であった。子どもたちが「できそうなこと」を「できること」にするためにも、「待ちの指導」を意識していきたい。

○今回の研修を通して、児童生徒理解とそれに対応する手立てを講じることの重要性を感じました。また、児童生徒理解を正しく行うためには、普段の生徒の様子を注意深く分析するのみではなく、発達段階等の基本的知識を持つことが大切であることを感じました。

【教職教育課より】



近年、高等学校においても支援を必要とする生徒が増加傾向にあり、現場に求められる対応も多様化してきています。体験研修では、特別支援学校の先生方や児童生徒と接する中で、特別支援教育だけでなく、生徒への支援の在り方など、改めて教育の原点を考える機会となったのではないのでしょうか。今回の体験研修で学んだ、適切な実態把握による個に応じた指導、支援が自校での日々の教育活動に生きることを期待しています。

◇3 新規採用教員〔3年次〕研修講座（中高、教科）

【期日】令和6年 10 月 31 日（木）・11 月 1 日（金）・11 月 7 日（木）・11 月 14 日（木）・11 月 20 日（水）・11 月 22 日（金）のうち、各校種・教科ごとに指定する 1 日

【目的】教科の学びが、企業で仕事をする際にどのように生かされるのかを、現場を見学し研修させていただくことにより、教員が実感することで、学校と社会とのつながりを考え、子供たちが学ぶことの意義を実感できるような授業を実践する指導力を育成する。さらに、学校におけるこのような教育活動をとおして、将来、企業で活躍できる人材を育成する。

【内容】

〈講義・研究協議〉「企業理念と概要」各訪問先企業の方

〈見学〉「企業の実際」

〈研究協議〉「教科の学びと社会とのつながり」センター指導主事、主査

【参加者の声】

○地域の特産品や産業を活用して、生徒の学習意欲を高め、生徒にとって身近な課題の解決策を考えさせることで、社会科の学習をより生活に結びつけたものにしていきたい。（中学校、社会）

○訪問先企業が掲げるビジョンから、地元企業との連携による商品開発などで地理や公民、総合的な探究の時間・課題研究の授業に活用していき、高校から地元をつくっていく生徒を育てていきたい。（高等学校、地理歴史・公民）

○どんな仕事でも企業でも、教科横断的な学びを生かすことの連続だと感じた。これからの授業は、もっと社会や実生活と結びつけた内容で展開していきたい。また、自分自身の資質能力も向上していけるよう、つねに新しい情報でアップデートしていけるようにしたい。（中学校、外国語（英語））

○訪問先企業の社長講話の中に、学ぶ程分からなくなるとの言葉があり、学びの本質に迫る言葉だと思った。実際の企業では、様々な教科の知識が横断的に必要になることがわかった。社会に出るための土壌を育てる場である学校で各教科が協力して横断的な学びをすることの必要性を強く感じた。（高等学校、外国語（英語））

○訪問先企業の方の講話から、社会に求められている資質・能力と日々の授業が密接に関連していなければならないということに改めて気づいた。（高等学校、国語）

【教科教育課より】

教科ごとに企業を訪問し研修を行いました。企業の方による講話や見学を通して、日頃学ぶことができない多くのことを学ぶことができました。受講者一人一人、教科の学びが社会でどのように生かされているか、また教科等横断的な視点での資質・能力の育成の重要性について考える貴重な機会となりました。今後、受講者の皆さんには、今回の研修で得た学びを各教科や総合的な学習（探究）の時間の授業にぜひ生かしていただきたいです。

◇4 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座【選択研修：教育相談】

【期日】令和6年 11 月 14 日（木）

【人数】110 名（小、中、高、特）

【内容】

〈講義・演習〉「関係機関との連携の実際」日立児童相談所 主査 鐵 邦昭、センター職員

〈演習〉「こどもたちが支え合うグループアプローチの活用～問題行動等の未然防止に向けて～」センター職員

【参加者の声】

○「関係機関との連携の実際」では、児童相談所の職員の方から直接話を聞く貴重な機会になった。事例や調査結果が

ら対応について知ることができた。虐待は一刻を争う場合もあるので、対応について学んだことを今後に生かしていきたい。
○午後の演習で行ったエクササイズは、自分で取り組むのは初めてでした。絵のうまさ、作業の速さを競うのではなく、その過程での会話や関わりが大切だと学びました。学活の時間などに、取り入れてみたいです。いじめの未然防止や児童の相互理解に効果的だと思います。また、職員間でも行うことで、チームワークがよくなるのではないかと思います。

○今日一日を通して、学級経営において土台となるのは「安全・安心」と一人一人が思えることだと改めて実感しました。午後の演習で、実際に自分たちが活動したことで、安心して話せることの喜び、認めてもらえる嬉しさを実感することができました。自分と同じような思いを、学級のこどもたちにも体験させたいと思いました。明日にでもすぐ取り組みたいです。

【教育相談課より】

児童相談所の方から実際に話を聞くことで、児童相談所の役割や虐待への対応等について理解が深まったという感想が多く見られました。今回の研修を機に、関係機関との連携が進んでいくことを期待しています。また、問題行動等の未然防止に向けた取り組みを、受講者の皆様に体験していただきました。ぜひ、学級や学年、職員研修等で取り組んでいただき、未然防止の重要性を共有していただきたいと思います。

◇5 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座【選択研修：情報教育Ⅰ期、Ⅱ期】

【期日】令和6年11月19日(火)、26日(火)

【人数】58名(小、中、高、特)

【内容】

〈演習〉「学校のデジタル化推進～ミドルリーダーの視点と役割～」センター職員(以下同様)

〈研究協議〉「授業におけるICT活用の実際～教室のリアルから学ぶ～」

〈演習・研究協議〉「未来の学びのためのICT活用～先端技術の体験から展望する～」

〈研究協議〉「未来の学びのためのICT活用～校内研修をマネジメントする～」

【参加者の声】

○本日作成した研修計画を使って、生成AIの研修を行いたいと思った。指導や助言をすることはできなくても、一緒に学ぶことはできるので、知りたいことを率先して研修につなげる役割を担えたらと感じた。未来に生きる子どもたちにとって有効な知識を研修していくことの大切さを感じたので、実践していきたい。

○目からウロコの使い方があまりにも多くありすぎ、早く自校の情報主任と共有し、学校の業務改善に生かしていきたいと感じました。

○たくさんの意見交換の場があったことで、多くの先生方からICT活用の実践を聞くことができ、とても良かった。ICTに苦手意識があったが、未来の学びに向けてこの講座を選択して良かったと感じた。

【情報教育課より】

本研修では、学校全体でICTを効果的に活用するためのミドルリーダーの役割を深く理解し、その実現に向けた校内研修の計画立案に取り組みました。

特に、研修内容を以下のように工夫し、実施しました：

- ・研修計画立案を9分野から選べる自由選択制の導入：自分の興味やニーズに合ったテーマで学べるよう設定しました。
- ・学校種混合グループ編成：異なる教育現場の視点を取り入れることで、多様なアイデアを引き出しました。
- ・生成AIを含むICT活用と校内研修の実践的協議：議論の時間を十分に確保し、スキル向上と協働的な学びを促進しました。

これらにより、お一人おひとりが最適な学びを得ると同時に、互いに学び合いながら学校全体の研修文化を進化させる「学びの相似形」も体現する場となりました。

さらに、お昼休みには体験型イベント「情報教育広場」を開催し、研修参加者にICT活用の楽しさを体感していただく機



会をご用意いたしました。参加者にとってリフレッシュしながら新しい視点を得る場となりました。

本研修で得た学びや成果を、それぞれの学校における研修の見直しや新たな取り組みにぜひ活かしていただきますようお願いいたします。

◇6 未来を創るSTEAM教育研修講座 第1日

【期日】令和6年8月23日(金)

【人数】73名(小、中、高)

【内容】

<研究協議>「STEAM教育に広がる教科等横断的な学び」

<実践発表・研究協議>「STEAM教育の実際」

桜川市立桃山学園 小口 久美子 教諭

稲敷市立新利根中学校 小竹 博明 教諭

県立玉造工業高等学校 大場 祐汰 教諭

<講義・研究協議>「新しい学びを創造するSTEAM教育」

白鷗大学 小川 博士 准教授

【参加者の声】

○実践発表や大学教授の講義を通して、理論や方法を詳しく知ることができた。他の先生方を巻き込みながら協力して、探究的・創造的な授業をつくっていききたい。

○学校全体が STEAM 教育についての理解を深め、全体で研究を進めていく必要があると感じた。本研修で学んだことをしっかり共有していきたい。

○STEAM 教育を授業に取り入れ、生徒たちと一緒に新しい世界を探究していきたい。

【教科教育課より】

第1日は、講義や実践発表を通して、実践発表や STEAM 教育の大まかなイメージをもつことができました。受講者にとって、子どもたちが自ら考え創造する力を育むことの重要性を改めて認識するよい機会となりました。

第2日は、実際にプログラミングや、ものづくりに取り組み、教科等横断的な学びを体感する一日となります。先生方には、各学校において STEAM 教育に取り組んでいただき、子どもたちの学びを一層深めていただきたいと思います。

◇7 いばらき輝く教師塾Ⅱ期

【期日】第1日 9月29日(日) 第2日 10月6日(日) 第3日 10月27日(日) 第4日 11月17日(日)

【人数】181名

【内容】

第1日 講義・演習「教員の使命とは」 講義・ワークショップ「魅力のある学級づくり」

第2日 講義・ワークショップ「一人一人の子供が主体的に取り組む授業づくり」

第3日 講義・ワークショップ「学級で気になる子供への支援」 講義・ワークショップ「授業における ICT 活用」

第4日 講義・ワークショップ「一人一人の子供を大切にする教師の関わり」 講義・演習「キャリア教育とは」

講話「教職を目指すにあたり」

【参加者の声】

○初めて参加したが、同じように教員を目指している人と交流しながら授業について案を出し合ったり、ICT 活用について意見交換したりすることができて非常に良い経験になった。

○この教師塾を受講して、教師を目指す仲間と切磋琢磨して教育について考えることができた。「人間性豊かな」教師を目指して、残りの大学生活も様々な経験をしたり、多くの人と交流したりすることを大切にしていきたい。

○私が教職を目指すきっかけをもう一度自分の中で振り返ることができる機会になった。私自身も、誰か1人の心にでも



響く教員になれるようにしたいと思う。また 4 日間を終えて、教員として必要な資質や、授業をする上での工夫、一人一人の子供への配慮について考えを得る良い機会となった。

【教職教育課より】

終了後アンケートの「教師塾に参加し、茨城県の教師になりたいと思いますか。」の質問に、93%の方が「はい」と回答されていました。教師塾Ⅱ期を通して教員の仕事の実践的な部分を学び、これからの教員を目指して何を学んでいくか方向性を見出した参加者が多くいらっしゃいました。また、教師塾Ⅱ期で出会った仲間とのつながりを広め、深めることができたことも大変よい機会となったようです。今回の出会いを大切に切磋琢磨できる仲間へと変わっていただければと思います。この研修を機に1人でも多くの方が、茨城の教員となって活躍くださることを願ってやみません。

■2 実践家の魅力に迫る！～アクティブラーナーにインタビュー

◇小美玉市立小川南小学校 佐藤 良太 教諭（小学校、体育）

佐藤先生は、児童に教材や教具の自己決定を促し、さらに課題カードを活用することで、各自の課題を明確化し、視覚的に捉える授業を実践されています。令和4年度の長期研修で取り組まれた「ベースボール型ゲーム」での実践を他の運動領域にも広げ、課題カードの工夫を通して、子どもたちの探究的な学びを引き出す改善を積み重ねておられます。

【実践者の振り返り】

○児童が自己決定の場を工夫することで、友達と協力しながら課題を解決し、その達成感や成就感を得ることができました。これにより、運動の喜びや楽しさを味わうことができ、有効な指導方法であったと感じています。

○課題カードの活用により、児童は自分やチームの課題を見つけ、それに対する解決策を考えながら運動に取り組みました。また、自らの課題を振り返り、新たな課題を設定するという主体的な学びの実現に効果的であると実感しました。

【今後に向けての抱負】

今後は、課題カードを完全な完成形ではなく、未完成の状態で児童に提示し、続きを自ら探究していくような、より探究的な学習を引き出す工夫を行いたいと考えています。また、児童が自ら課題カードを作成できるような指導の工夫も検討していきたいと思います。

※佐藤先生の実践は、中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（小学校、体育）においても発表され、研究の成果や現在の実践例、そして課題カードの提供が行われました。佐藤先生のカードを参考に、他の単元でのサクセスカードを作成した受講者もあり、広がりを実感できております。また、茨城県教育研修センターの「学習カード等共有 PADLET」においてもダウンロードできます。ぜひご自分の学校の実態に合わせてアレンジしてご活用ください。

<https://padlet.com/aonohiroko/padlet-tsg5dculovdclbq7>

E: ボール運動（ベースボール型）のところからダウンロードしてください。

■3 センター事業のご案内

▼1 公開講義のお知らせ（教科教育課）

○公開講義: No.19「創造的な学びに着目した理科教育」
（オンライン）

【日時】令和7年2月6日（木）13:30～15:30

【講師】玉川大学 久保田 善彦 教授

【対象】中学校の理科担当

マルチメディア教材や生成 AI といった新しいテクノロジーを活用して理科教育におけるさまざまな問題の解決や改善を考えていく講義です。

○詳細、お申し込みはこちらをご覧ください。（申込期限: 令和7年1月31日）

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdGi7JGKv3n7W7_hidCdJBQ3ZRgA7ExILXa-8Jmbw2YdO9WUQ/viewform?usp=sf_link

○公開講義:No.22「創造的な学びに着目した理科教育」(オンライン)

【日時】令和7年2月13日(木)13:30~15:30

【講師】日本大学 野内 頼一 教授

【対象】高等学校の理科担当

新しい時代に必要とされる資質・能力を育成するために、高校理科教員は何ができるのか。様々な事例を参考に、これからの理科教育の在り方を考えます。

○詳細、お申し込みはこちらをご覧ください。(申込期限:令和7年2月6日)

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeCOR_MkvluXt-JYGII7x2PbxYJ0YuHDyvIHMBzcaHTodFvZA/viewform?usp=sf_link

▼2 「令和6年度教師の魅力について考えるセミナー ~ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方~」のお知らせ 教職教育課

「ウェルビーイングな学校において、全ての先生方に教師の魅力を感じて働いていただきたい」という願いを込めて本セミナーを企画しました。

第1部では、令和の日本型学校教育の実現に向け、ウェルビーイングな学校創りと教師(先生)の働き方(在り方)について参加者同士での対話を通し、ご自身の「在り方」について考えたいと思います。

第2部では、植松努さんの講演、木村泰子さん、坂本建一郎さんとのパネルディスカッションをとおして、ウェルビーイングな学校創りと教師(先生)の在り方、教師の魅力について追求していきたいと思います。

【講師】木村 泰子(大阪市立大空小学校初代校長)

植松 努(植松電機代表取締役)

坂本建一郎(時事通信社編集委員)

【日時】令和7年2月1日(土) 9:30~16:40

【場所】茨城県教育研修センター

詳細・お申込みは、学校にすでに配付しましたチラシをご覧ください。以下の URL か QR コードからご覧ください。

<https://www.center.ibk.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/3733>



▼3 Online Ed Café

「第34回 Online Ed Café 木村泰子先生と語る『きょういく』」の動画を、当センターWeb ページの Online Ed Café で公開しております。今回は、苫野一徳先生をメンバーに迎え、「安心して過ごす」をテーマに本質観取を行いました。そして、安心して過ごせる学校とはどんな学校なのか、問い返しました。ぜひご覧ください。

掲載 URL <https://youtu.be/NCtIIM6i8Is?si=bXeTr6nBPA3UnpTK>

▼4 教職に関する研究「学ぶことと自己の将来をつなげるキャリア教育」について

教職教育課では、令和5年度より2年間に渡り、県内の小学校2校、中学校3校、高等学校2校との連携によりキャリア教育の研究を進めています。先行き不透明で、予測困難な時代に生きる子どもたちには、社会の変化に柔軟に対応しながら、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を身に付けることが求められています。そのため、学校教育におけるキャリア教育のニーズはますます高まっていると言えます。

そこで、本課の研究では、キャリア教育の視点から各学校、あるいは各発達段階において、児童生徒の資質・能力の育

成のためにどのような働きかけを行うことができるかを研究しているところです。この研究はキャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」のうち「自己理解・自己管理能力」に、さらには児童生徒が将来に向かう主体性を育むことに焦点を当てました。児童生徒一人一人が自己の「できること」「意義を感じること」「したいこと」をしっかりと認識し、自己効力感を高め、自己指導能力を発揮することができるよう、各学校においてさまざまな働きかけを行っています。

この研究結果は、来年度の夏に予定されている研究発表会にてご報告いたします。皆様の学校での日頃からのキャリア教育の取組の参考になれば幸いです。是非、児童生徒が自ら学び、進んで行動するために、どのような働きかけを行うことができるかを一緒に考えましょう。

■4 推挽録(編集に寄せて) 教職教育課 参与 中川 深

▽「街の本屋さん 多くの『?』」

幼いころ、駅に売店があった。

そこで初めてマンガを買ってもらった。

おまけのシールがうれしくて、柱にペタペタ貼った。

それからだろうか、マンガがきっかけとなったのだが、本が好きになった。

小学生、中学生のときは、駅前の本屋さんに毎週のように通った立ち読み少年。

でも、本屋のおばちゃんはイヤな顔一つせず、「いらっしやい!」と声をかけてくれた。

高校生、大学生のときは、電車の時間待ちの間に、移動中に本を開いていた。

時は流れ、ネットでの購入が主流の時代。

でも、本屋には今もマメに通う。

お目当ての本を購入するために行くのだが、すぐには買わず、様々なコーナーをブラブラ歩く。

すると、普段手に取らない、興味が薄い分野でも、表紙を見て目を引かれる本に出会う。

ちょっと手に取り、パラパラページをめくると、「へえ〜?」と感動に出会う。

本との偶然の出会いが、そのときどきの自分に足りないもの、必要なもの、困っていることに、さりげなく気づかせてくれるのだろう。

また、知らなかった世界をのぞけるような気持ちが生まれる。

それが、感動である。

人として「へえ〜?」は大切な感覚だ。

ちょっとした気づきから学びのヒント、生き方のヒントが得られる。

日ごろ目にするものでも、「どうなっているんだろう?」「これって・・・?」との想いが人生を豊かにしてくれる。

人は学びの生き物。

いつも「?」の気持ちをもっていたい。

学びはどこにでもある。

ぜひ、学ぼうという目をもちたいものだ。